

さんだんきょう
開峡百周年 三段峡の歴史と自然

平成 30 年 1 月 10 日(水)～ 3 月 17 日(土)

大正 6 年 (1917), 写真家の熊南峰と小学校教師の斎藤露翠が初めて三段峡に入り, 峡谷の美しさを世に広める活動を始めました。三段峡は大正 14 年 (1925) には国の名勝に, 昭和 28 年 (1953) には特別名勝に指定され, 昭和 44 年 (1969) には三段峡を含む西中国山地一帯が国定公園に指定されました。

三段峡は近年, フランスの旅行専門誌『ブルーガイド』で, 宮島や原爆ドームに続いて最高格付けの三ツ星を獲得するなど, その魅力が再評価されてきています。熊南峰と斎藤露翠の入峡から百周年に当たる平成 29 年 (2017) 10 月, 地元の安芸太田町では記念式典や記念行事が開催され, 次の百年を見据えた保存と活用の取り組みが始まりました。

本展では, 三段峡の開峡百周年を記念して, 広島県立文書館が所蔵する三段峡の関係資料を紹介し, その観光開発と自然保護の歴史を跡付けてみたいと思います。 (担当: 荒木 清二)

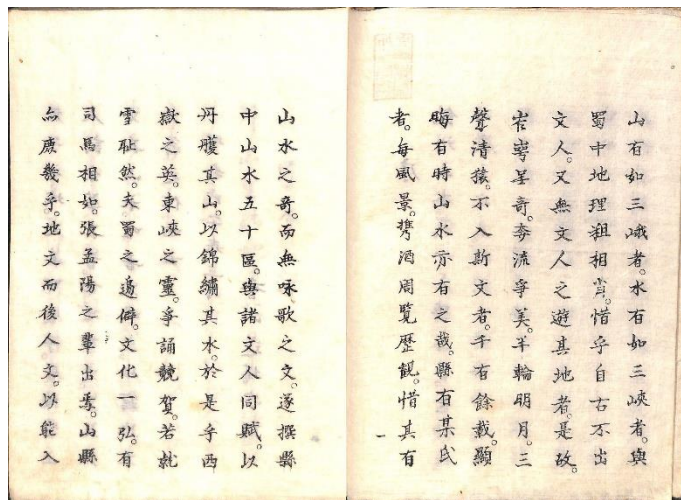
I 江戸時代の文献にみる三段峡

1 『松落葉集』 佐々木正封編 明和 5 年 (1768) 編 (奥田隆太郎氏収集文書 199806-532)

山県郡加計村を中心とした太田川上流域の景勝 53 か所の絵に, 漢詩や和歌などの賛を付けて紹介したもの。明和 5 年 (1768) に加計村の佐々木 (隅屋) 正封が編集し, 安永元年 (1772) に出版された。序文には, この地域の景勝が中国・蜀地方の「三峨」, 「三段峡」に似ていると記されており, 熊南峰による「三段峡」命名の典拠となった。本書に収録された「竜口」, 「三段竜頭」, 「猿飛」, 「呼岩」の景勝は, 当時の文人たちに知られていたことが分かる。



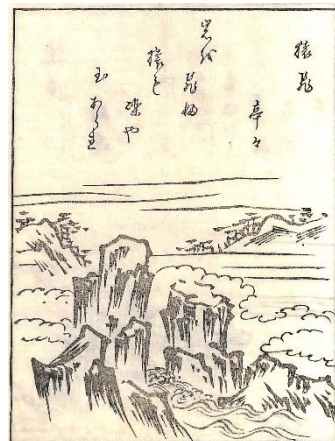
竜口



序文



三段竜頭



猿飛



呼岩



2 『芸藩通志』(復刻版)(図書 A000-19)

『芸藩通志』は広島藩の代表的な地誌で、文政8年(1825)に全159巻が完成した。このうち巻61には、山県郡の古蹟名勝として「竜口滝」、
「三級竜頭滝」、^{さんきゅうりゅうずたき}「猿飛岩」^{さるとびいわ}が挙げられ、巻141には「竜口滝図」が収録されている。また、巻149の芸文には、「竜口」を題材とした漢詩が掲載されている。

II 三段峡の「開峡」と熊南峰・齋藤露翠

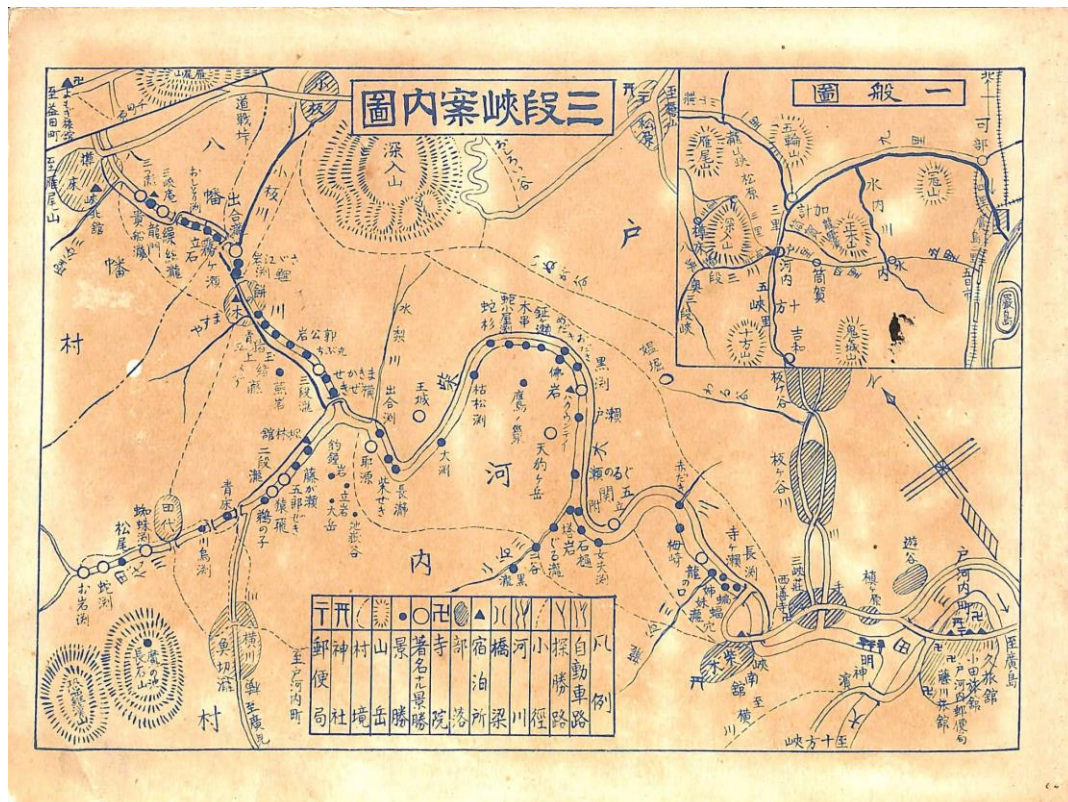


3 『安芸三段峡三十三景』 大島写真館 大正11年(1922)(竹島浅吉氏収集文書 199510-152)

熊南峰(名は勝一^{かついち}, 1876~1943)は、大正2年(1913)から大島写真館(広島市大手町三丁目)の写真技師を務め、山県郡斯民会から委嘱された『山県郡写真帖』を製作するため、大正6年(1917)に初めて三段峡に入った。その峡谷美に強い感銘を受けた南峰は、友人の齋藤露翠^{さいとうろすい}とともに、三段峡の名勝指定運動や観光開発推進に主導的な役割を果たした。本書は、大正11年(1922)に発行されたもので、南峰が撮影した景勝33か所の写真を収録している。

4 『安芸三段峡』 熊南峰著 昭和4年(1929)(竹島浅吉氏収集文書 199510-45)

昭和4年(1929)2月に熊南峰が三段峡とその奥に位置する八幡高原^{やわた}、及び西隣の奥三段峡の景勝地36か所を紹介した写真集。



三段峡案内図
(資料4所収)



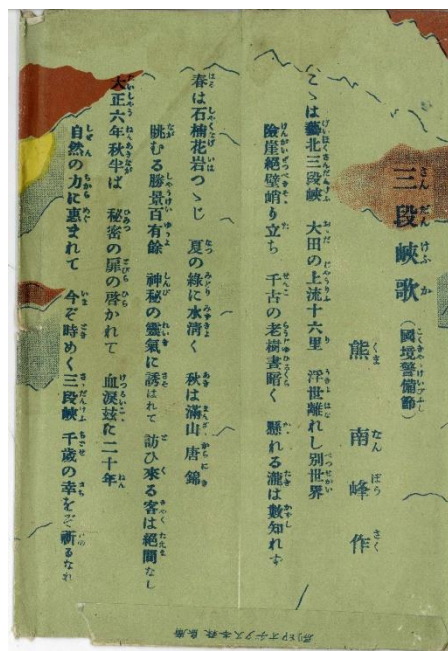
柴木川峡谷 上流より見たる長淵 (資料4所収)

5 「天下之奇勝 三段峡」(絵葉書) 三峡社 [昭和12年(1937)頃~19年(1944)] (小都勇二資料 201301-2347)

この絵葉書は、通信欄の記載様式からみて、昭和8~19年(1933~44)のものとして推定される。また、包紙の裏面に印刷された熊南峰作の「三段峡歌」の歌詞に「大正六年秋半ば 秘密の扉の啓かれて 血涙茲に二十年」とあることから、開峡から20年が経過した昭和12年(1937)頃よりも後に作成されたものとみられる。



包紙(表)



包紙(裏)
熊南峰作「三段峡歌」



二段滝の絵葉書

6 明治四十五年小学校教員名簿 二六 山県 学務課 明治 45 年 (1912) ~ (広島県行政文書 S02-2004-533)

明治 45 年 (1912) に広島県が作成した山県郡の小学校教員名簿で、その後人事異動の状況が加筆され、昭和初期まで使用されている。この名簿の本郷尋常高等小学校の項に、^{ほんごう}斎藤軍一 (号は^{さいとうぐんいち}露翠, 1884~1964) と妻・キシヨの名がみえる。露翠は、大正 6 年 (1917) 3 月 31 日付けで本郷尋常高等小学校へ赴任し、^{よこがわ}横川分教場 (のちの横川小学校, 現在の山県郡安芸太田町横川) に勤務。以後昭和 28 年 (1953) までの 36 年間、横川地区の児童教育に情熱を注いだ。なお、この名簿で、斎藤夫妻以外の氏名が朱筆で抹消されているのは、他校へ異動したことを示している。

職名	氏名	職名	氏名
訓導	久賀トキヨ	訓導	河野静人
代尋	富岡ハルヒ	代尋	齋藤軍一
代尋	美能ハルヒ	代尋	齋藤軍一
尋	鈴木博九郎	尋	鈴木博九郎

7 「^{よこがわ}横川小学校沿革史」(複製) 斎藤露翠ほか著 大正 6~昭和 45 年 (1917~70) (^{こうだみつはる}幸田光温氏所蔵文書 200502-1)

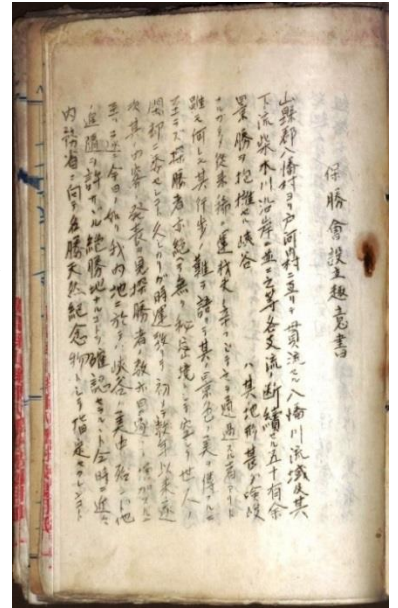
斎藤露翠が、大正 6 年 (1917) に横川分教場に赴任し昭和 28 年 (1953) に退職するまでの 36 年間の出来事と、それ以前の学校の沿革を記したもの。露翠の退職後は、各年度の在職教師が昭和 45 年 (1970) 3 月の廃校時まで書き継いでいる。露翠は、横川赴任直後から三段峡の自然に親しみ、大正 7 年 (1918) に熊 南峰と出会った後は、協力して三段峡の魅力発信に努めた。大正 11 年 (1922) 7 月 23 日の項には、^{にちにち}広島芸備日日新聞の主催で 20 余名の探勝隊が三段峡に入峡し、露翠がその歓迎役を務めたときの様子が記されている。

辞令の変更
 七月十六日 政令で尋常高等小学校を山県郡横川分教場と改称し、齊藤主任は横川
 婦人会長故う以て會員八名を率出席す
 會員の熱誠を認め後藤部長より特會員
 兼事務長に當りし一般會員の對して此
 由を告げ資力揚を大に面づく施す
 七月二十日 廣島藝備日日新聞社主催、芥木
 園、猿飛、三段滝等、探勝隊入峡す
 齊藤主任、青年團員、青年會員等が指
 導する之を觀、歡迎、在席一行、田部、藤中
 中将以下武拾餘名、河村、長河、本、柏、氏以
 下村内有志青年團員、案内者、人、夫等
 統制、百餘名、原、露翠、齊藤主任、横川、代表、自然、人、題、下、一行
 、歡迎、挨拶、す、
 之、此、峽谷、探勝、目的、以、人、人、峽、谷、
 最初、ト、自然、奇、美、ト、驚、歎、す、
 之、アル、一行、程度、満足、す、前途、發展、有
 望、視、え、自然、俗、當、校、区域、文化、進

Ⅲ 三段峡の名勝指定

8 三段峡の名勝指定運動に関する書類綴 八幡村 大正 9～13 年（1920～24）
 [芸北町役場文書（旧八幡村）198911-3226]

山県郡八幡村（現在の山県郡北広島町）は、戸河内村（現在の山県郡安芸太田町）と連携して、三段峡を史蹟名勝天然記念物（記念物）保存法による名勝に指定するための運動を進めた。この資料は、その関係書類を綴った八幡村の公文書で、指定運動を進めるための「保勝会」の設立趣意書や、大正 12 年（1923）に内務省の史蹟名勝天然記念物考査員・国府犀東博士が来峡したときの文書などが含まれている。



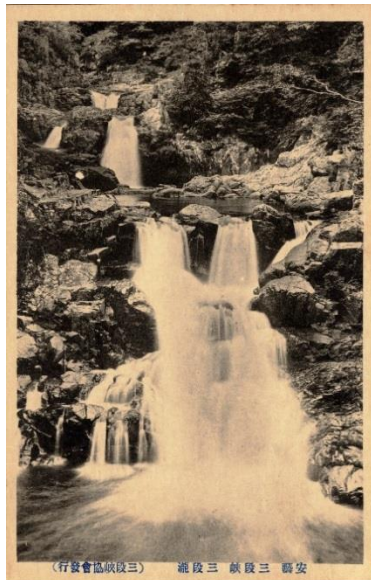
9 『史蹟名勝天然記念物調査報告 第一輯』 広島県 昭和 4 年（1929）
 [芸北町役場文書（旧雄鹿原村）198911-1780]

大正 14 年（1925）10 月 8 日、三段峡は史蹟名勝天然記念物保存法による名勝に指定された。本書は、広島県内の史蹟・名勝・天然記念物に関する調査報告書で、三段峡については、地質や動植物の状況、それぞれの景勝の特徴などが報告されている。なお、三段峡は、昭和 28 年（1953）11 月 14 日には、文化財保護法に基づく特別名勝に指定された。

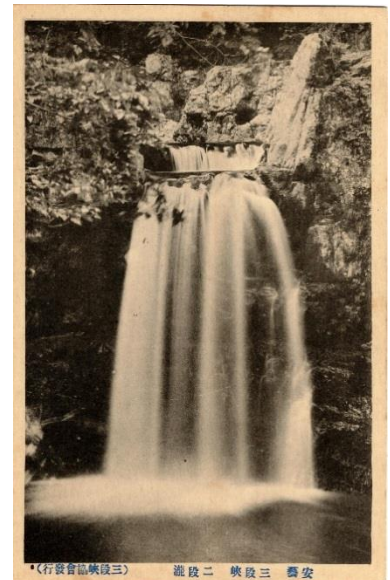
10 「天下の絶勝 三段峡絵はがき」
 三段峡協会 [大正 14～昭和 7 年
 (1925～32)] (長船友則氏収集資料 200407-1687)

この絵葉書は、通信欄の記載様式からみて、大正 7～昭和 7 年（1918～32）のものと推定される。さらに、発行者の三段峡協会が設立された大正 14 年（1925）以後に絞り込むことができる。

【写真】三段峡の「五大観」と呼ばれる三段滝、二段滝、猿飛、三つ滝、竜門。その他の景勝は次頁。



三段滝



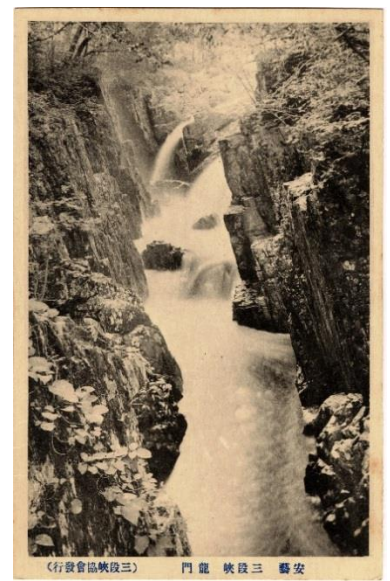
二段滝



猿飛



三つ滝

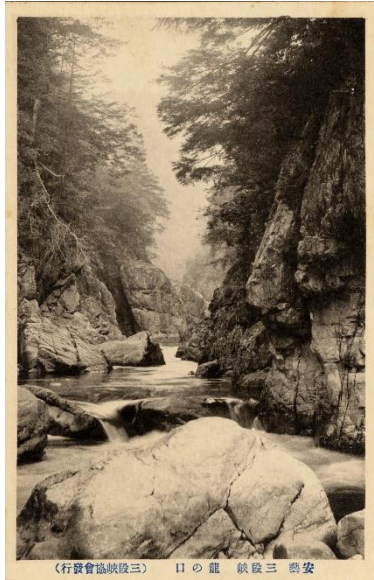


竜門



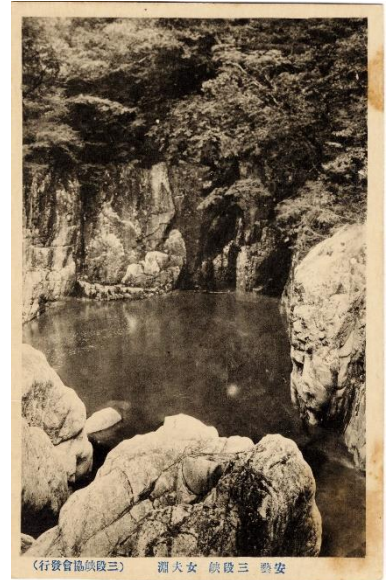
(行發會協峽段三) 岩 峽段三 藝安

仏岩



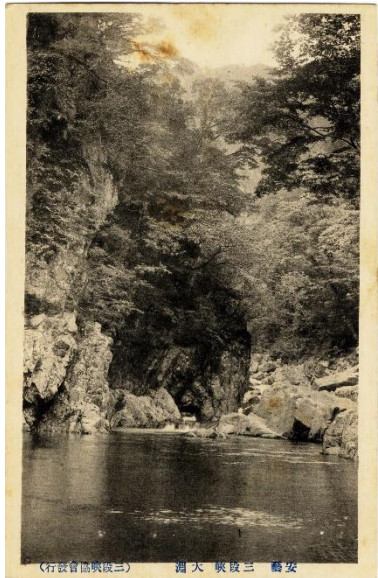
(行發會協峽段三) 口の龍 峽段三 藝安

竜の口



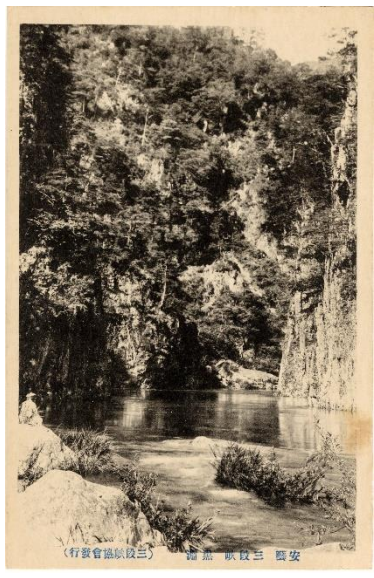
(行發會協峽段三) 淵火女 峽段三 藝安

女夫淵



(行發會協峽段三) 淵大 峽段三 藝安

大淵



(行發會協峽段三) 淵黒 峽段三 藝安

黒淵



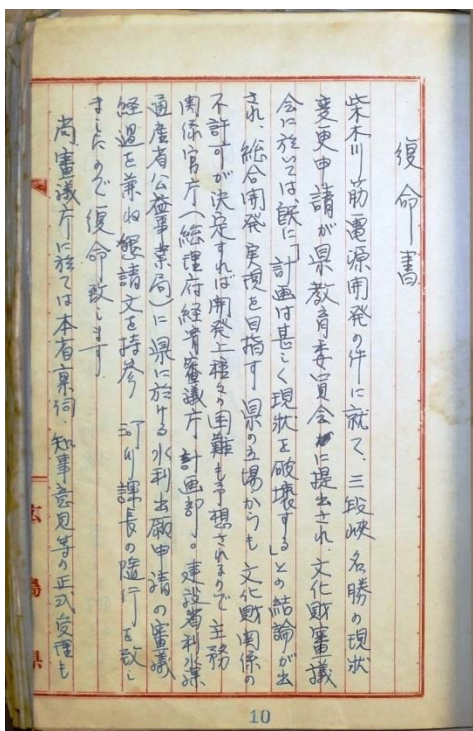
(行發會協峽段三) 滝合出 峽段三 藝安

出合滝

IV 戦後の開発

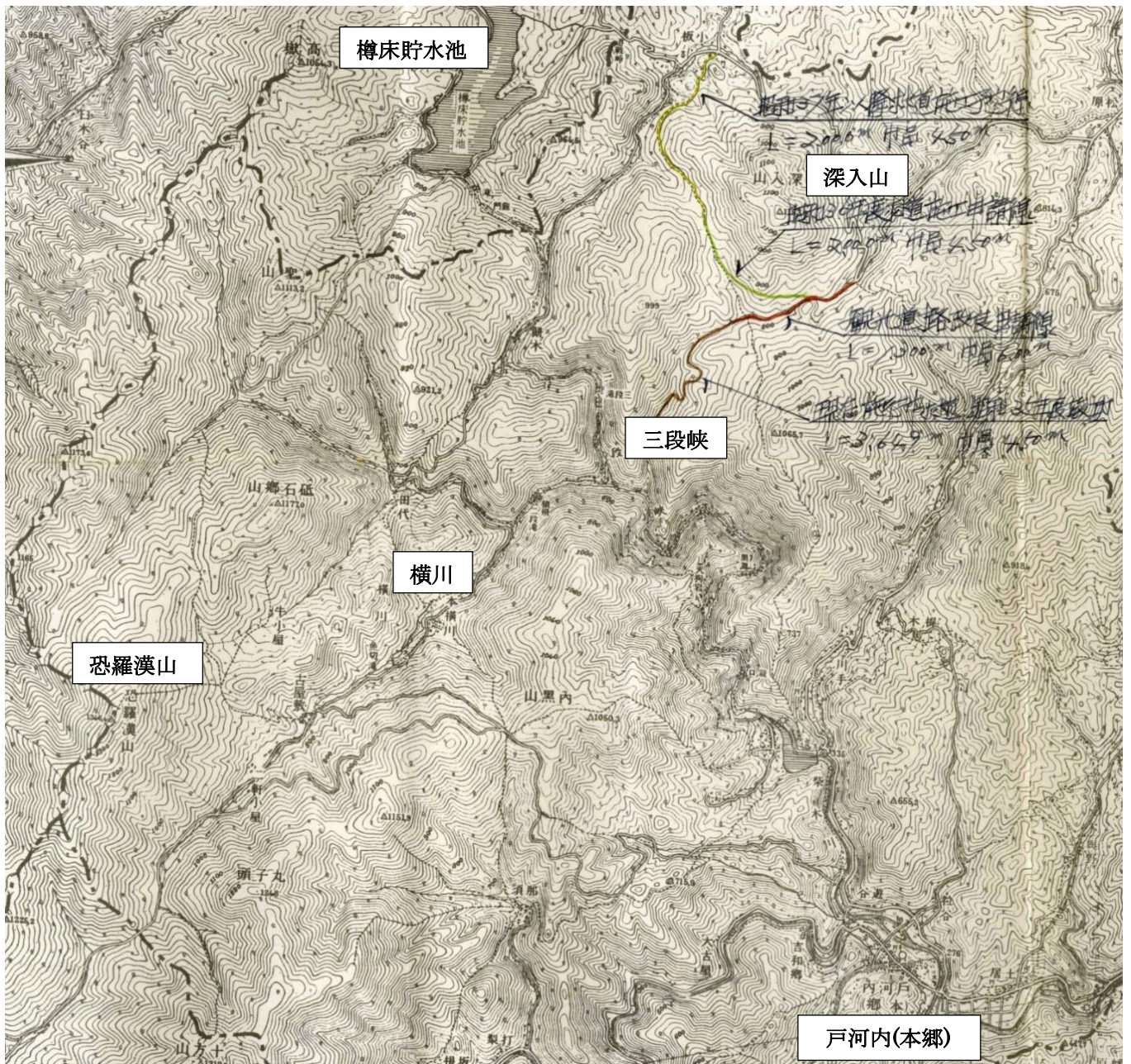
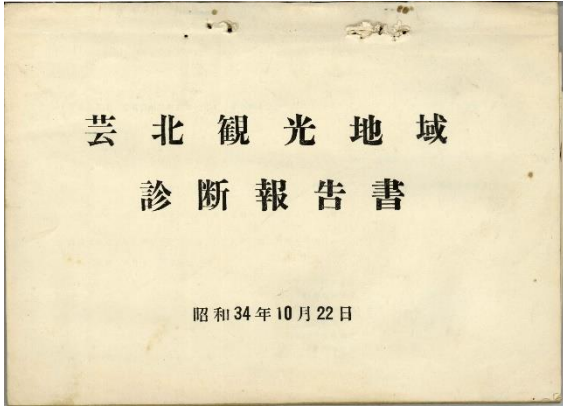
11 柴木川発電関係一件 河川課 昭和27~29年(1952~54) [広島県行政文書(旧長期保存文書)103523]

三段峽を形成する柴木川には、戦前から電源開発の計画があつたが、昭和26年(1951)に芸北地域が国土総合開発法に基づく特定地域に指定され、開発が推進されることになった。昭和27年、中国電力は柴木川に発電所建設を計画し、文化財保護委員会に名勝三段峽の現状変更を申請した。当初計画は、^{はなはだ}甚しく現状を破壊するとして却下されたが、計画変更によって翌28年11月に許可された。また、ダム建設で水没する^{たるとこ}樽床地区の住民との交渉は難航したが、大原県知事の^{あつせん}斡旋によって解決し、第2発電所が昭和30年2月に、第1発電所が32年10月に竣工した。



12 陳情書（戸河内町の観光開発推進に関する書類綴） 商工観光課 昭和 31～35 年（1956～60）（広島県行政文書 S01-91-267）

昭和 35 年（1960）10 月、戸河内町が三段峡や深入山^{しんにゅうざん}等の観光開発促進のため、広島県に対して観光道路の整備を要望した陳情書。昭和 30 年 11 月に芸北特定地域総合開発の根幹事業が閣議決定されて以来の、観光開発推進に関する資料が添付されている。その後、昭和 40 年 3 月には、国鉄本郷線（可部線）加計―三段峡間の延伸工事が始まり、観光を支える交通網の整備が進められた。

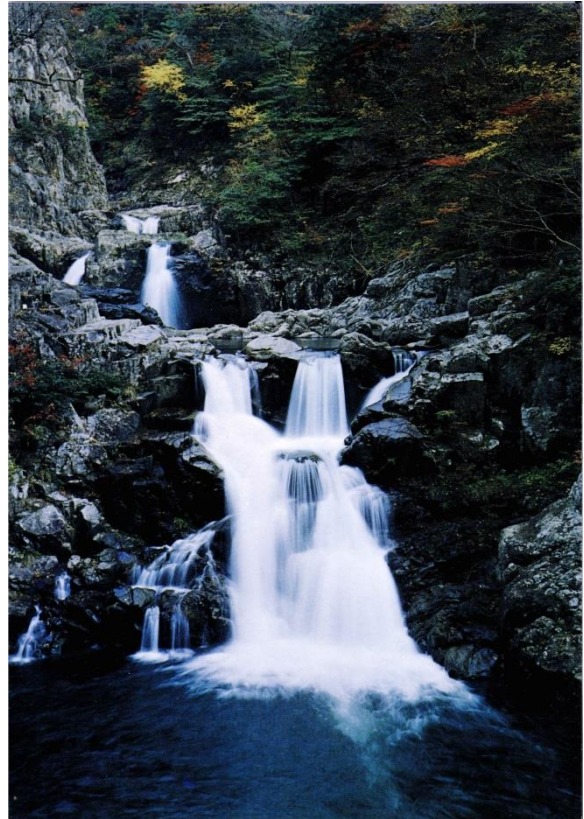


13 三段峡（フォトカード）（和泉富夫氏収集文書 200807-11）

表面に三段峡の解説と探勝案内図を，裏面に個別の名勝の写真に掲載した，縦 21.0 cm×横 14.7 cmの大判のフォトカード。探勝案内図には，それぞれの名勝と三段峡ホテルの位置が赤字で記されている。



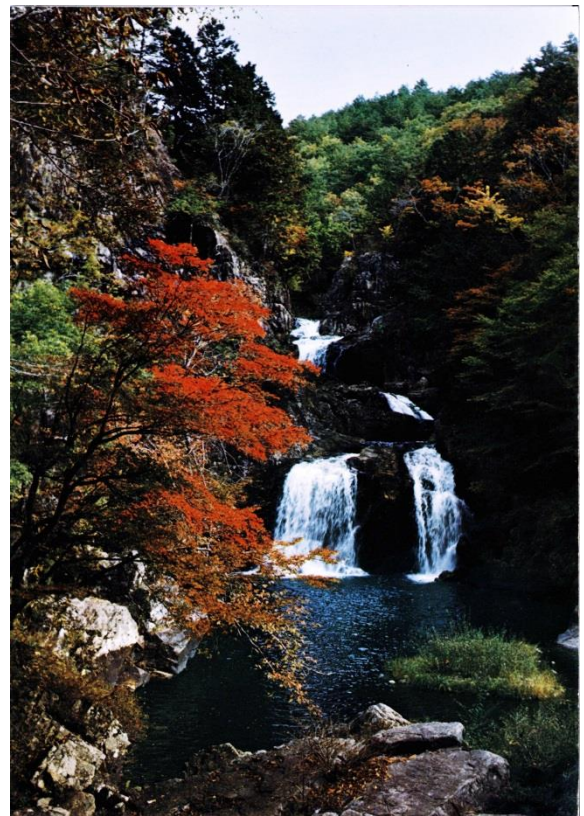
二段滝



三段滝

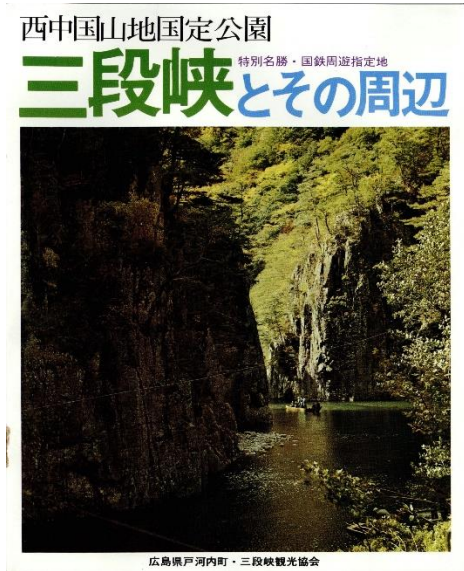


黒淵



三つ滝

【写真】資料 15 所収の案内書・リーフレット



16 西中国山地国定公園の絵葉書（三段峡周辺の観光地）（和泉富夫氏収集文書 200807-84-1・85-4）



【写真】上左：^{おそろかん}恐羅漢スキー場
上右：^{ひじりこ たるとこ}聖湖（樽床貯水池）
左：^{しんにゅうざん}深入山



17 国鉄可部線（加計—三段峡間）開通初日の三段峡駅 昭和 44 年（1969）7 月 27 日（長船友則氏収集資料 200407-610）

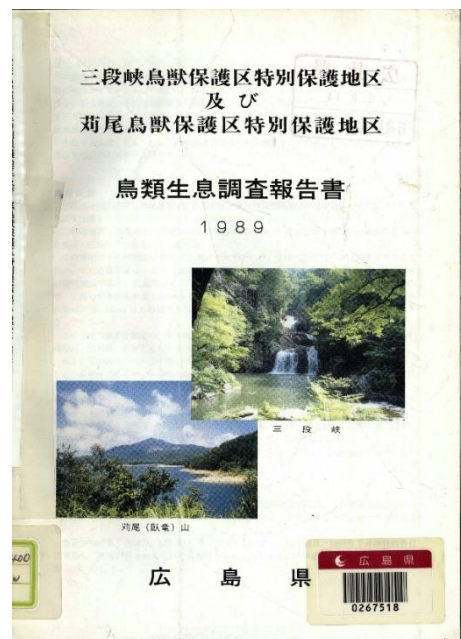
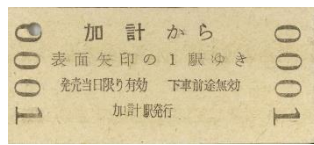
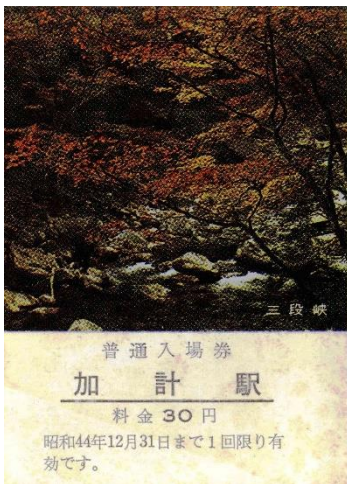
加計—三段峡間は、建設時には、戸河内町の中心地名をとって「本郷線」と呼ばれていた。三段峡への年間入込観光客数は、昭和 43 年（1968）の 285,500 人から、開通 2 年後の昭和 46 年（1971）には 361,000 人に増加した。

18 JR可部線（可部—三段峡間）最終日・三段峡にて（団体専用列車）平成15年（2003）11月30日（長船友則氏収集資料 200407-612）

可部—三段峡間の廃線により、三段峡の観光は大きな打撃を受けた。



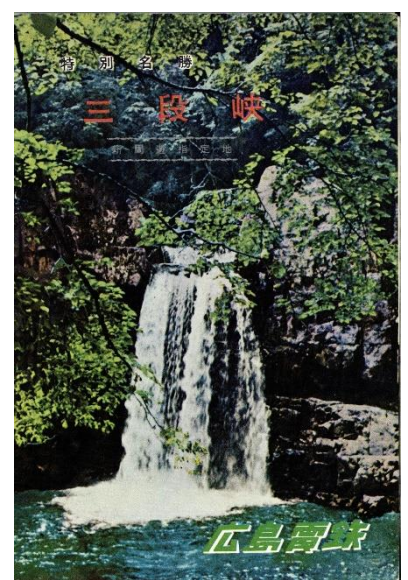
19 本郷線（可部線）加計—三段峡間開通当時の切符 昭和44年（1969）7月27日（小都勇二資料 201301-58）

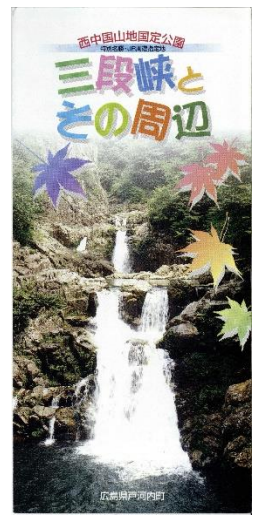
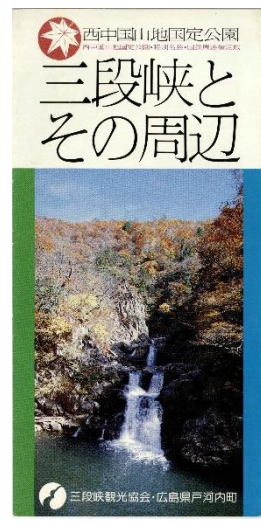
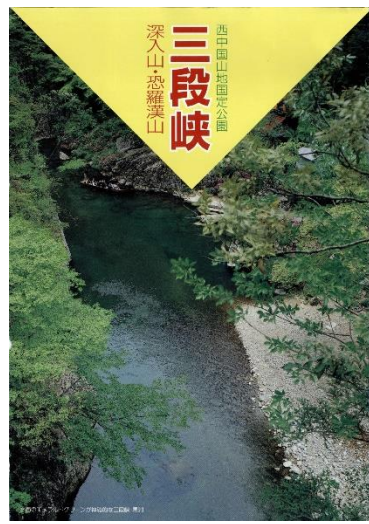
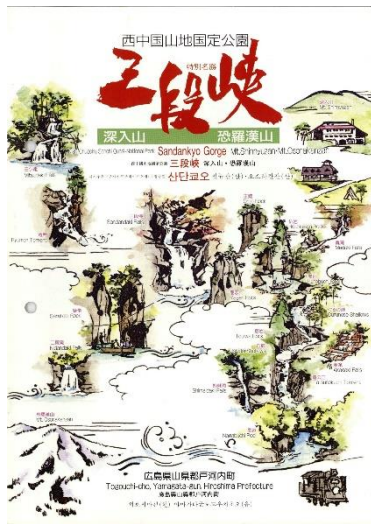


20 『三段峡鳥獣保護区特別保護地区及び苅尾鳥獣保護区特別保護地区 鳥類生息調査報告書』 広島県 平成元年（1989）（行政資料 4560-2009-395）

西中国山地国定公園内の三段峡及び苅尾鳥獣保護区特別保護地区とその周辺区域について、希少な鳥類の生息実態を明らかにし、その保護管理のための資料を得ることを目的として、広島県が日本鳥類保護連盟広島県支部に委託して実施した調査の報告書。

21-1 三段峡の観光パンフレット（1）（左から、山田迪孝文書 200013-109・665，村上式資料 200011-2815・2732）





22 「三段峡沿革史略年表」 竹島浅吉著・広島電鉄観光課発行 昭和35年(1960) (後藤陽一資料200901-箱4-14)

昭和35年(1960)当時, 広島電鉄の観光部長を務め, 広島県文化財協会役員としても活躍していた竹島浅吉(1908~2003)が, 三段峡の沿革史をまとめた略年表。三段峡の歴史を知るための基礎資料として貴重である。(※『戸河内町史』資料編(下)594~597頁に翻刻)

年 月 日		要 要			
昭和四	八	史蹟調査天竺山(天竺山)調査第一編「広島県史」を發行す	昭和四	八	史蹟調査天竺山(天竺山)調査第一編「広島県史」を發行す
昭和三	六	吉田首相が三段峡を視察す	昭和三	六	吉田首相が三段峡を視察す
昭和二	七	三段峡の名称を調査す	昭和二	七	三段峡の名称を調査す
昭和一	〇	三段峡の名称を調査す	昭和一	〇	三段峡の名称を調査す
大正一五	一〇	三段峡の名称を調査す	大正一五	一〇	三段峡の名称を調査す
大正一四	一〇	三段峡の名称を調査す	大正一四	一〇	三段峡の名称を調査す
大正一三	一〇	三段峡の名称を調査す	大正一三	一〇	三段峡の名称を調査す
大正一二	一〇	三段峡の名称を調査す	大正一二	一〇	三段峡の名称を調査す
大正一一	一〇	三段峡の名称を調査す	大正一一	一〇	三段峡の名称を調査す
大正一〇	一〇	三段峡の名称を調査す	大正一〇	一〇	三段峡の名称を調査す
大正九	一〇	三段峡の名称を調査す	大正九	一〇	三段峡の名称を調査す
大正八	一〇	三段峡の名称を調査す	大正八	一〇	三段峡の名称を調査す
大正七	一〇	三段峡の名称を調査す	大正七	一〇	三段峡の名称を調査す
大正六	一〇	三段峡の名称を調査す	大正六	一〇	三段峡の名称を調査す
大正五	一〇	三段峡の名称を調査す	大正五	一〇	三段峡の名称を調査す
大正四	一〇	三段峡の名称を調査す	大正四	一〇	三段峡の名称を調査す
大正三	一〇	三段峡の名称を調査す	大正三	一〇	三段峡の名称を調査す
大正二	一〇	三段峡の名称を調査す	大正二	一〇	三段峡の名称を調査す
大正一	一〇	三段峡の名称を調査す	大正一	一〇	三段峡の名称を調査す

三段峡沿革史略年表

広島電鉄・観光課

35. 9. 1

- 主要参考文献
- 『戸河内町史』資料編(下) 戸河内町 平成5年(1993)10月31日発行
 - 『戸河内町史』通史編(下) 戸河内町 平成13年(2001)3月30日発行
 - 『峡友 三段峡開発秘話』 千田武志原作・今道英治作画 戸河内町教育委員会 平成9年(1997)10月発行